

山形県・戸沢村の雪かきボランティア報告

野木山想会 今野善伸

【日 程】2018年2月2日(金)～4日(日) 2泊3日 天気 (晴れ/晴れ/雪)

【交通・費用】宿泊代と高速代が山形県から補助、残りを人数で按分

【参加者】今野 尾崎 縫村 松田 英保の5名 プラス 埼玉と千葉から15名の計20名

【戸沢村】山形県最上郡に位置する ドラマ「おしん」のふるさとである。人口4700人

●国民健康保険発祥の地: 当時の記録によれば、農家の貧窮はその窮みに達し、病気になっても医療を受けられる状態ではなかった。村人全員が病気にかかることはないので、病人がでたら皆で互助救済していこうということで、保険組合の必要を一戸一戸早坂村長が説いて回ったそうだ。そして昭和11年に日本で始めて角川村保険組合が発足したのである(村民は所得に応じて保険料を払い、診察代は2割、薬代は5割の負担で診療を受けることができた)。

●今は、村おこしに熱い「日本一 情熱の村」である。ひとえに早坂信一村会議員の行動による。



<感想文>

現地の一人暮らしの雪かきで、がんじきを履いても歩くのがやっとですが、地元のボランティアの人と8人でプラスチックのバケツ(60cmX60cm)(スノーダンプともいう)雪を乗せ押して運んだだけでしたが、大汗をかきました。4mの雪を2mぐらいまで片すのが精一杯でした。

また、地元の人が屋根からの雪に埋まって九死に一生をえた話を聞き、仲間が掘り出してくれたのですが、埋まると雪が70cmの厚さでも身動きが出来なかったそうです。自分の体温で雪が融けるのですが、また冷たさに変わったそうです。微力ながら雪かきをした家の方に喜んでいただきました。

また、協力できることがあれば参加したいと思います。(R. O)

午後も村民ボランティアの方と8名で2階建の家で1階部分が、出入口と倉庫になって、2階が住居になっているようでした。

出入口は水が流れていて溶けて雪はなかったのですが、家の周りは1階部分は積雪で覆われて、軒下は屋根からの落雪により2階の窓も半分埋もれています。南側と北側とに分かれて作業開始です。除雪道具に用意してくれたのがスコップとスノーダンプがありますが、屋根からの落ちてきた雪は湿って固くスコップで刺して崩しながら一段低い所に投げだしますが、慣れないせいか、きつい作業です。

作業をしていると高齢の住人が窓を開けて差し入れをもらうしばし、休憩をとる。今日は無風の好天に恵まれて、こんな日はめったにないとのこと。一時間半の作業でしたが、軒下の雪も低くなりました。部屋にお日様が入って室内が明るくなったかな思いました。(K, N)

関東地区山の会の方20名 野木山想会5名で山形県戸沢村にて雪掻きボランティアに参加しました。2月3日(土)9時 戸沢村改善センター集合し、オリエンテーション体操の後、6つの班に分かれ、私は4班で、野木山想会4名(Kさん、NさんHさん私)そして、現地の村民ボランティア3名リーダーの斎藤さん他新藤さん柳田さん計7名のメンバーです。4班午前中の作業はAさん宅で、少し前に、お姑さん旦那さんが相次いで亡くなり、一人でご病気もあるとの事で、現地に到着して家の1階がスッポリ雪で埋まっている光景を見た時には、日頃はどのように生活しているのか食事はどうしているのかなど考え、自分では想像もつかない事を実感しました。

雪が柔らかく深いので、カンジキをはき、村民ボランティアの方々の指示の元スコップやスノーダンプを使って、阿部さん宅1階を埋めているに雪を裏山の斜面に運ぶ約1時間半の作業でしたが、かなり汗をかく重労働です。又屋根には村民ボランティアの方が、上がってくれましたがそれでも滑って転ぶこともあり危険の伴う作業でした。

休憩中、Aさんのような高齢者1人の家が増えており、村の人口が減って今では5000人に届かず、小学校1クラス3人くらいで「地方創生なんて言ってる場合じゃない。人がいなくなったら私たちどうしようもない」というお話を聞き、実態の深刻さをまのあたりにしたいという気がいたしました。最後に感謝の言葉を頂きましたが、本当に役にあったのだろうかと思いの微力さを感じつつ、村民の方々の暖かさそしてたくましさに触れ、普段の生活へのありがたさを思い知る経験でした。(T, M)